

# 12月 定例議会

12月定例議会が11月30日に開会し、12月8日から10日まで一般質問、15日の最終日には議案審議が行われました。

主な議案として、東海村第5次総合計画基本構想（平成23～32年度）、平成22年度東海村一般会計補正予算（歳入歳出それぞれに8,395万2千円を追加）、東海村職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例、東海村教育委員会委員の任命等の議案が上程され、審議の結果、すべて可決・同意されました（条例関係4件、予算関係10件、その他13件）。

## 東海村第5次総合 計画基本構想

可決

東海村第5次総合計画は、平成23年度から10年間の計画を定めるもので「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」から構成されています。市町村が策定する総合計画のうち基本構想は議会の議決を必要とするものです（地方自治法第2条第4項）。

### 反対討論

みらいの会

猫塚 豊治 議員

第5次総合計画の基本構想は抽象的表現ばかりで目標がほとんど見えない。一般村民に分かりやすい文章表現で目標・施策を明記し、子どもや若者が夢や希望の持てる地域づくりと雇用創出も記すべきこと、基本計画も構想に含めるよう重ねて要請しましたが全面

拒否でした。基本構想には、村が存立している特性を生かした振興発展の将来図と必要な振興施策の大綱を定め、少なくとも経済振興や土地利用福祉の向上、そのための基盤整備と環境整備、文化の充実等に方向を示すべきなのです。このことを今回の基

本構想に照らし合わせると、地域づくりの最上位に位置付けられる財源対策には一言も触れていませんし、村の存立に大きくかわる原子力エネルギー分野も完全に欠落しています。この点も指摘しましたが、拒否回答だったことから「みらいの会」は、本議案には反対します。

### 賛成討論

光風会

江田 五六 議員

第5次総合計画は、それぞれ価値観の異なるさまざまな村民の多様性を尊重した上で「まちづくり」を進めていくために、村民の参画による、村民のためのまちづくりを目指しています。策定作業への参加者は延べ139人、会議数で102回にも及ぶもので、広

く住民参画の手法で策定された意義は大きい。基本計画については、前期と後期5年ずつに分け、実施計画については3年ごとに見直し、財政を勘案しながら必要な事業計画を毎年作成するのとこのこと。今後10年間の社会情勢は、大きく変動すると予想される中で、

柔軟に対応する行政の能力と謙虚な姿勢が読み取れます。この基本構想は、抽象的な面はあるものの、普遍的理念に裏付けされたものであるが故に、今後、議員・村民が共にまちづくりについて考え、実行できるような柔軟な計画であると、高く評価します。